

ブラジル -政策金利は据え置き-

<政策金利は据え置き>

1月20日（現地時間）、ブラジル中央銀行（以下、BCB）は金融政策委員会において、4会合連続で政策金利を14.25%に据え置くことを決定しました。

会合の前にBCBのトンビニ総裁が、IMFの見通しを考慮し、ブラジル経済はスタグフレーション（景気後退と物価上昇が同時に進行する状態）に陥っており、大幅な利上げで物価を抑える従来の路線を放棄する可能性を示唆するという異例の声明を発表していたこともあり、直前になって政策金利の据え置き観測はやや強まっていました。

<ブラジル景気は悪化傾向>

1月19日に発表されたIMFの世界経済見通しでは、ブラジル経済は資源価格低迷や政治的ごう着で深刻なりセッション（景気後退）に見舞われていると指摘されています。IMFの見通しではブラジルのGDP成長率は2015年の推計値が▲3.8%、2016年予想は2.5ポイント引き下げられ▲3.5%とされました。

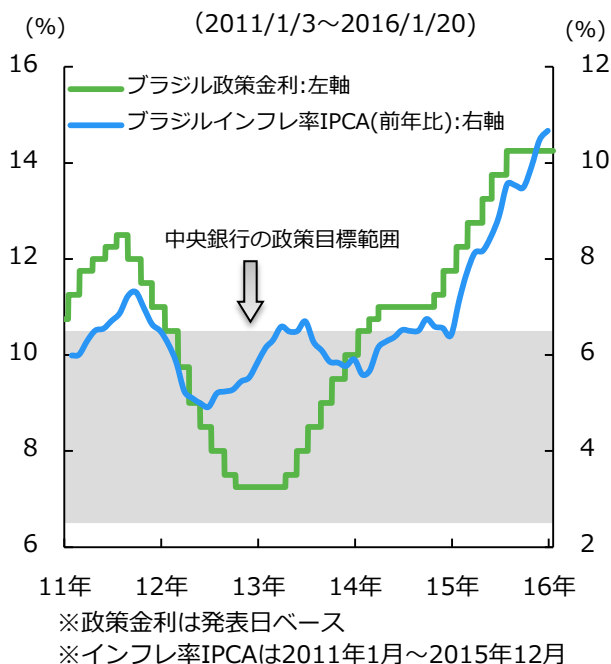
ブラジル経済は鉱工業生産の落ち込みに加え、通貨安による輸入物価の上昇でインフレが常態化、実質購買力に下押し圧力がかかり個人消費も弱まっています。さらに、足元ブラジル政府が進める財政緊縮策や、インフレ抑制のための高金利政策も景気の下押し材料になっています。

<今後の見通し>

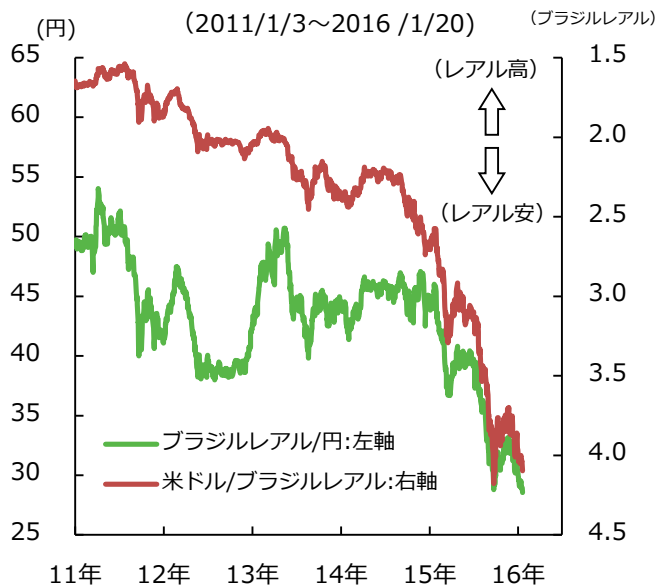
また、昨年12月には9月のS&Pに続きフィッチが信用格付を投機的等級に引き下げたことでブラジル債券やブラジルレアル（以下レアル）が売られました。ムーディーズは投資適格級では最低ランクを維持していますが、格付けを引き下げる方向で見直す作業に入っています。投資家からの信任回復のためには、バルボザ新財務相らによる財政再建策の着実な実施が求められます。

米国の金融正常化の動きから新興国・資源国の通貨は変動性が高まりやすい上、国内景気の低迷や政治的な混乱、財政再建の遅れに伴う信用不安などによりレアルは当面不安定な動きが続くことが予想されます。レアルの安定のためには、スタグフレーションの緩和、財政再建策の進展、政治的混乱の収束が求められます。

<政策金利とインフレ率の推移>



<ブラジルレアルの推移>



出所：Bloomberg